

筑波大学附属視覚特別支援学校

入学試験サンプル問題

中学部

| |
|----|
| 国語 |
|----|

ページ数 18

設問数 4

※サンプル問題の出題はあくまでも例であり、

問題数や形式は本試験と異なる場合があります。

※解答例の公表はおこないません。

※サンプル問題の出題内容に関するご質問には一切

お答えできません。

一次は、トラックのない時代、荷物を運ぶために使われていたトロツコという車輪が四つある手押し車おにかかわるお話です。良平という男の子は土工（土を運ぶ人）たちにたのんで、トロツコをいっしょに押せることになりました。これを読んで、後の問一と十二に答えなさい。

（六十点）

そのうちに線路の勾配*1 こうばいは、だんだん楽になり始めた。「もう押さなく

ともよい。」——良平は今にも言われるかと内心気がかりでならなかつ

た。が、若い二人の土工は、前よりも腰こしを起こしたぎり、黙々もくもくと車を押

し続けていた。良平はとうとうこらえ切れずに、おずおずこんなことをたずねてみた。

「いつまでも押していい？」

「いいとも。」

二人は同時に返事をした。良平は「やさしい人たちだ」①と思った。

* 2

五、六町あまり押し続けたら、線路はもう一度急勾配きゆうこうばいになった。そ

こには両側のみかん畑に、黄色い実がいくつも日を受けている。

「登り道の方がいい、いつまでも押させてくれるから。」——良平はそ

んなことを考えながら、全身でトロツコを押すようにした。②

みかん畑の間を登りつめると、急に線路は下りになった。しまのシャツを着ている男は、良平に「やい、乗れ」といった。良平はすぐに飛び乗った。トロツコは三人が乗り移ると同時に、みかん畑のおいをあお

りながら、ひたすべりに線路を走りだした。「押すよりも乗る方がずつ
*3
といい。」——良平は羽織に風をはらませながら、当たり前のことを考えた。「行きに押す所が多ければ、帰りにまた乗るところが多い。」——
そうも考えたりした。

竹やぶのあるところへ来ると、トロツコは静かに走るのを止めた。三人はまた前のように、重いトロツコを押し始めた。竹やぶはいつか雑木林になった。爪先^{つまさき}上がりの所々には、赤さびの線路も見えないほど、落ち葉のたまっている場所もあった。その路^{みち}をやつと登り切ったら、今度は高いがけの向こうに、広々とうすら寒い海が開けた。と同時に良平の頭には、あまり遠く来すぎたことが、急にはつきりと感じられた。

三人はまたトロツコへ乗った。車は海を右にしながら、雑木の枝の下を走って行った。しかし良平はさっきのように、おもしろい気もちにはなれなかった。「もう帰ってくれればいい。」——彼はそうも念じてみた。が、行く所まで行きつかなければ、トロツコも彼らも帰れないことは、もちろん彼にもわかりきっていた。

④
その次に車の止まったのは、切りくずした山を背負っている、わら屋根の茶店ちやみせの前だった。二人の土工はその店へ入ると、乳飲ちのみ子をおぶったかみさんを相手に、悠々ゆうゆうと茶などを飲み始めた。良平は独りいらいらしながら、トロツコのまわりをまわってみた。トロツコには頑丈がんじょうな車台の板にはねかえった泥どろが乾かわいていた。

しばらくの後茶店を出て来しなに、巻きたばこを耳にはさんだ男は、

(その時はもうはさんでいなかったが) トロッコの側そばにいる良平に新聞

紙に包んだ駄菓子だがしをくれた。良平は冷淡れいたんに「ありがとう」といった。が、

すぐに冷淡にしては、相手にすまないと思い直した。彼はその冷淡さを

取りつくろうように、包み菓子つつの一つを口へ入れた。菓子⑥には新聞紙に

あつたらしい、石油のにおいがしみついていた。

三人はトロッコを押しながらゆるい傾斜けいしやを登って行った。良平は車に手をかけていても、心は他のことを考えていた。

その坂を向こうへ下り切ると、また同じような茶店があつた。土工たち
がその中へはいった後、良平はトロッコに腰をかけながら、帰ること

ばかり気にしていた。茶店の前には花のさいた梅に、西日の光が消えかかっている。「もう日が暮れる。」——彼はそう考えると、ぼんやり腰を掛けてもいられなかった。トロツコの車輪をけつてみたり、一人では動かないのを承知しながらうんうんそれを押してみたり、——そんなことに気もちをまぎらせていた。

ところが土工たちは出て来ると、車の上の枕木まくらぎに手をかけながら、無造作に彼にこう言った。

* 5

「われはもう帰んな。おれたちは今日は向こう泊まりだから。」

「あんまり帰りがおそくなるとわれの家でも心配するぞら。」

⑦

良平は一瞬間いっしゆんかんあつけにとられた。もうかれこれ暗くなること、去年

の暮れ母と岩村まで来たが、今日の道はその三、四倍あること、それを今からたった一人、歩いて帰らなければならないこと、——そういうことが一時にわかったのである。良平はほとんど泣きそうになった。が、泣いても仕方がないと思った。泣いている場合ではないとも思った。彼は若い二人の土工に、取ってつけたようなおじぎをすると、どんどん線路伝いに走りだした。

良平はしばらく無我夢中^{むがむちゆう}に線路の側を走り続けた。そのうちに懐^{ふところ}の

菓子包みが、じゃまになることに気がついたから、それを道ばたへ放り

*6

出すついでに、板^{いた}ぞうりもそこへ脱ぎ捨^{ぬす}ててしまった。するとうすい足^た

*7

袋^びの裏へじかに小石が食いこんだが、足だけははるかに軽くなった。彼

は左に海を感じながら、急な坂道をかけ登った。時々涙がこみ上げてくると、自然に顔がゆがんでくる。――それは無理にがまんしても、鼻だけは絶えずくうくう鳴った。

竹やぶの側をかけぬけると、夕焼けのした日金山の空も、もう火照りが消えかかっていた。良平はいよいよ気が気でなかった。行きと帰りと変わるせいか、景色のちがうのも不安だった。すると今度は着物までも、汗のぬれ通ったのが気になったから、やはり必死にかけ続けたなり、羽織を道ばたへぬいで捨てた。

みかん畑へ来るころには、あたりは暗くなる一方だった。「命さえ助かれば」――良平はそう思いながら、すべってもつまずいても走って行

った。

やっと遠い夕やみの中に、村外れの工事が見えた時、良平はひと思いに泣きたくなった。しかしその時もべそはかいたが、とうとう泣かずにかけ続けた。

彼の村へはいつてみると、もう両側の家々には、電灯の光がさし合っていた。良平はその電灯の光に、頭から汗の湯気の立つのが、彼自身にもはつきりわかった。井戸端いどばたに水をくんでいる女衆や、畑から帰ってくる男衆は、良平があえぎあえぎ走るのを見ては、⑨「おいどうしたね？」

などと声をかけた。が、彼は無言のまま、雑貨屋だの床屋とこやだの、明るい家の前を走り過ぎた。

彼の家の門口^{かどぐち}へかけこんだ時、良平はとうとう大声に、わっと泣きださずにはいられなかった。

注

（芥川龍之介^{あくたがわりゆうのすけ}「トロツコ」）

* 1 勾配^{こうばい}．．．かたむき。

* 2 五、六町．．．約五、六百メートル。

* 3 羽織．．．和服の着物の上に着る短い上着。

* 4 乳飲^{ちの}み子．．．赤ちゃん。

* 5 われ．．．おまえ。

* 6 板ぞうり．．．裏に板をはったぞうり。

* 7 足袋^{たび}．．．和服の時にはく、くつ下のようなもの。

問一 良平は「やさしい人たちだ」① と思った。とありますが、そう思っ

た理由を答えなさい。

問二 ② 全身でトロッコを押すようにした。のは何のためですか。答えな

さい。

問三 ③ 良平はさっきのように、おもしろい気もちにはなれなかった。と

ありますが、「さっき」とはいつのことですか。答えなさい。

問四 良平はさっきのように、おもしろい気もちにはなれなかったに③

ついて、そのような気持ちになったきっかけも入れて、理由を答えなさい。

問五 彼にもわかりきっていた④ とありますが、何をわかっていたので

すか。本文中からぬき出さずに、具体的に答えなさい。

問六 冷淡に⑤ とは「冷たく」という意味ですが、どうしてこのよう

な態度を取ったのですか。答えなさい。

問七

⑥ かし

菓子には新聞紙にあつたらしい、石油のにおいがしみついてい

た|とありますが、この表現から、良平は菓子に対してどのような

気持ちでいるとわかりますか。答えなさい。

問八

⑦ いっしゅんかん

良平は一瞬間あつけにとられたとありますが、その理由を答え

なさい。

問九

⑧

羽織を道ばたへぬいで捨てたとありますが、この行動は、羽織

がうっとうしかったからだけではない良平の気持ちを表しています。

どんな気持ちを表していますか。答えなさい。

問十 「おいどうしたね？」などと声をかけた ⑨
とありますが、どうし

て声をかけているのですか。答えなさい。

問十一 帰り道で良平は、何度も泣きそうになりながら泣きません。それはなぜですか。答えなさい。

問十二 良平が泣いたのはいつですか。また、その時はどのような気持ちでしたか。それぞれ答えなさい。

二次の①～⑤の説明に当てはまる語句を、後のア～オからそれぞれ

一つ選び、記号で答えなさい。(十点)

- ① 小さい時の性格は一生変わらないということ。
- ② それまで分からなかったことが急に理解できるようになること。
- ③ 値段や評価がみるみるうちに高まっていくこと。
- ④ 自分が連らくをしても、相手から返事がないこと。
- ⑤ それさえなければ完ぺきなのに、少しの欠点があること。

ア なしのつぶて イ うなぎのぼり ウ 玉にきず

エ 三つ子のたましい百まで オ 目からうろこが落ちる

三 次の①～⑤の文の _____ の語句がくわしく説明している部分を、

後のア～ウからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。(十点)

① 朝顔が ゆつくり 花びらを 開いた。

ア 朝顔が イ 花びらを ウ 開いた

② ネコと 犬が 庭で 勢いよく 走り回った。

ア ネコと犬が イ 勢いよく ウ 走り回った

③ 大きな 川が 静かに 流れて いる。

ア 川が イ 静かに ウ 流れている

④ 新しい カレンダーを かべに はる。

ア 新しい イ かべに ウ はる

⑤ かれは とても 速く 走れる。

ア かれは イ 速く ウ 走れる

四 次の①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。また、⑥～⑩は漢字の読みを答えなさい。(二十点)

- | | | | | | |
|---|---------|---|---------|---|--------|
| ① | 植物のカンサツ | ② | コツキをかざる | ③ | 目標タツセイ |
| ④ | 電車がコむ | ⑤ | 戦いにヤブれる | | |
| ⑥ | 招待 | ⑦ | 慣例 | ⑧ | 豊作 |
| | | | | ⑨ | 営む |
| | | | | ⑩ | 易しい |